【令和2年度第1回全体会 意見交換集約】

全体会資料について、お寄せいただいたご質問やご意見に対して、関係する部会等を中心にいただいたご返答やご意見をまとめております。以下、ご確認ください。

1. 各部会等の活動報告及び計画についてのご意見・ご質問

■雇用フォーラム及びしごとサロンたかまつの中止に伴い、8/3 予定のイベント委員会も中止となるのか。

【就労支援部会】

7月8日初回の会議以降、イベント委員会の方向性を決めていきます。今年度はオンラインと少人数のイベント等検討必要と考えています。そのため、各委員会の会議日程については、7月8日以降再度検討となります。

■各部会の今年度の取り組みについて、もう少し具体性（いくつかの項目は数値目標等も）があれば、今どれくらいその課題への対応がすすんでいて、あとどれくらいのことが必要なのか、誰が見ても分かりやすくなると思いました。

【就労支援部会】

今年度の就労部会の初回の会議が7月8日を予定しています。会議が開催できていないので、具体的にお伝えできない事と、進捗確認等意識し、部会を運営していきたいと存じます。

【医ケア部会】

今年度の取り組みとして、具体的な目標を下記に挙げます。

- ① 就学に向け、アンケートを実施し高松市内の医ケア児の人数把握と思っていました。しかし、アンケートが難しいと判明したので、教育センター・こども園運営課・教育センター・MSWと連携し、就学前の医ケア児に就学に関する相談先のアナウンスをしていく方向で考えているので、それに向け資料等の作成・配布を完了したいです。
- ② 保育所に看護師配置していきっており、来年は小学校に配置となるので、その課題を部会内で検討し、医療的ケア児等コーディネーターとの連携ができるよう、その体制づくりを具体的にしていきたいです。

【こども部会】

・高松圏域(高松市・三木町・直島町)で児童発達支援・放課後等デイサービスを利用している保護

者に対してサービスに関するニーズアンケートを上半期に実施します。現在、アンケート用紙は9割程度完成し、200名程度を対象に実施する事が決まっています。今後は対象者の選定、配布方法、回収後のアンケート結果集計方法、どの様に公表するかを部会で検討します。見込みとしては8月配布、9月回収、10～11月集計、12月公表の予定です。

・年2回開催している児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会は参加人数が多くなるので開催の予定が立っていません。今年度は中止になる可能性が高いです。その代わりに、HP上のデイ情報をリニューアルして見やすいものにしていきます。こちらは上半期で出来ます。

■アンケート（身体障害者支援部会 日常生活における困りごとの実態調査（事業所用））を見ていて、各質問にある「わからない」と回答した人こそ、何が問題なのか自分でも分からない。本当に困っている人ではないかと感じます。「相談に関すること」の「誰に相談すればいいかわからない」という回答も同じ。

【身体障害者支援部会】

ご意見ありがとうございます。今回のアンケートは、事業所に、当事者が感じている困りごとについて聞き取るためのアンケートです。「わからない」との回答は、事業所が本人の状況について把握していないということだろうと考えます。「相談に関すること」では当事者アンケートの中でも「誰に相談すればいいかわからない」との回答が多く、当事者と相談員の関係性を深めていくこと、適切な相談先の周知が必要だろうと考えます。

■発達障害のある学生への支援として、高校に対するアプローチを発達障害部会と就労支援部会それぞれで行っていますが、リンクさせて考えた方がよいこともあるのではないかと思います。

【発達障害部会】

取り組み始めた年度や、そもそもの目的や動機が異なるため、お互いの事業の擦り合わせができないまま進めてしまいました。ご指摘は非常に重要なことと思いますので、これから制作物を用いて高校現場を回ったり等々の運用面で情報共有しながら動いていけるようにします。

【就労支援部会】

課題が共有できるものについて、そのすすめかたとします。対象者によって必要に応じて、リンクさせてすすめます。

■身体障害者支援部会の実態調査大変だったと思いますが、実態把握は重要でありとても意味のある活動だと思います。ひとつずつ、把握から次に進めていけると良いかと思います。

【身体障害者支援部会】

ご意見ありがとうございます。

一昨年度は当事者に対してアンケートを行い、昨年度は事業所に対してアンケートを実施しました。回答の中には災害時における当事者の不安な思いや社会参加への障壁が明らかになりました。アンケートから抽出した課題の解決に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

■知的障害者部会の地域移行について、地域移行を希望される知的障害者の方はたくさんいらっしゃると思ひますが、施設では高齢化、重度化が進み以前と比べ地域移行の取り組みは少なくなっているのではないかと思ひます。希望を叶えるために、相談支援専門員の方の積極的な働きかけが必要かと思ひます。

【知的障害者支援部会】

ご意見ありがとうございます。圏域内の相談支援専門員にアンケート協力をお願いしたところ、地域移行が進まない理由として大きく2つ挙げられました。①（家族を含む）支援者の理解不足 ②地域社会資源の不足（GH が少ない等） 対策については同時に進めていく必要があるかと思ひますが、おっしゃる通り①に関しては家族および施設職員の意識を変える積極的な働きかけが必要です。家族が地域での生活は無理だと決めつけており、また施設職員も家族の意向を尊重しているといった内容が多く見受けられました。また、相談支援専門員自身が能力的に無理、誰が責任をとるのかといった残念な回答もありました。支援者の意識を変え、施設以外の生活をイメージできない（経験がない）ご本人への理解促進を図ること、本人が選択できること等を部会で検討していきたいと思ひます。

2. 協議会に持ち込まれた課題について、ご意見やご質問があればご記入ください。

■B型就労の方の中で、一般企業やA方就労を目指している方の把握ができればいいと思われる。
■仕事がうまくいかなかった場合や、就労移行で仕事先が見つからなかった場合の居場所として、B型就労の重要性も分かるので、連携していきたい。

【事務局】

B型事業所同士のネットワークを作る方向で動いています。B型利用者の実態をつかみ、その中に一般企業やA型を目指している層、居場所として利用している層がどれくらいいらっしゃるのか、どんなニーズを持っているのか等調べることも可能かと思ひます。

■災害時の対応については最近、高松市ボランティア協会から「災害弱者安心ネットワーク」という組織を立ち上げたと聞きました。」連携や協力はしているのでしょうか。

【事務局】

現時点での具体的な連携や協力はありますが、今後の活動の中で時機を見て検討したいと思います。

■児童が利用できる短期入所事業所の不足については、事業所が増えない理由などが分かれば挙げていただき、状況改善に向けた意見をいただきたい。

【事務局】

この課題を提起いただいた情報からは、事業所自体の不足という課題のほかに、どんな風に事業所を選んでいるのか、その情報がどれくらい選ぶ側にあるのかといった点も気になる点でした。情報を収集し整理に取り組みたいと思います。

【こども部会】

- ・実際に児童の短期入所を提供している事業所の方の声を聞く必要がある様に感じます。
- ・宿泊の出来る職員確保（同姓介護を求められる）が大変だと聞きます。

■障害児の就学相談については、保護者だけでなく所属機関やその家庭にかかわっている関係機関からの相談も考えられるため、チラシやHPなどにより、役割を周知していければよいと思う。

【事務局】

年度当初に、高松市総合教育センターより今年度の就学相談が開始された旨のご案内をいただき、相談支援部会を通じて圏域内相談支援事業所に対して、この課題の概要とともにそのご案内を周知しています。また、協議会 H.P.にも記事を共有しております。今後、三木町、直島町の就学について等も含めて収集した意見を整理し、あらためて運営会議を通して必要な取り組みを実施したいと考えています。

【事務局】

相談支援専門員や児童発達支援等の関係機関がどのような役割を持っているのか整理し、共有したうえで早めに周知できればと思います。

【こども部会】

総合教育センターのご意見が参考になると思います。

【就労支援部会】

就学に関しては、義務教育段階では、各学校と管轄教育委員会が連携して、相談にあたっている。高校段階の就学に向けては、各学校に相談する必要がある。ここでいう「役割」とは、どこのこ

とを指すのでしょうか。それにより、チラシ・HP掲載が必要かが判断できると考えます。

3. その他、協議会全体についてご意見やご質問があればご記入ください。

■今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年通りの会の開催が難しい状況にあると思います。今後の情勢も不透明ですので、参加者の多い会については、今回のような書面での情報共有、メールでの意見の募集等でもよいと思います。

【事務局】

ご意見有難うございました。今回皆さまからいただいたご意見等を見る限り、メールの方が意見交換しやすい部分もあるように思えますし、また遣り取りの回数も限界があり、やりにくさもあると思われます。「こんなやり方もあるよ」というアイデアもありましたら、お寄せください。

■・施設により作業やレクリエーションの比率が異なると思われる。

・生活面の安定化と労働への意欲などについて、ワークライフバランスの観点からみて、各機関がどのような意見を持つか関心がある。

【就労支援部会】

ナカボツの業務に、在職者交流会やピアサポート活動があるが、コロナの影響で今後の活動をどうすべきか思案中である。ワークライフバランスの観点でも、こうした活動は楽しみにされている方が多いので、なんらかの企画を模索したい。

■今年度より全体会に参加させていただくこととなり、資料を見させていただきました。

多くの部会やWGが立ち上がっており、それぞれが課題解決等に向け、広く活動されていることを改めて知り、知らないことで事業所として活用できていないシステムや情報があるものだと感じました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、情報共有や意見交換、顔の見える関係づくりが難しくなっている一方で、感染予防対策など、積極的に情報収集に努めなければならない状況でもあります。各部会でも話し合われることが多くなる話題かと思っておりますので、是非、圏域内の状況や取り組みなど話題となったものの情報についてHP等で広く提供していただければと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】

ご意見有り難うございます。ホームページ上でコロナ感染対策に関する情報を集約した場所があ

ればいいのではないかという意見もあります。さらにいただいたように、特に圏域内の情報を確認できる提供の仕方も検討したいと思っています。

■活発な協議会になっていると思います。それも、事務局の方、部会で中心となって動いてくださっている方々のおかげだと思っています。

【事務局】

ご意見有り難うございます。各部会等の活動に関しては、各部会等リーダーの皆様、また各部会等にご参加いただきともに活動していただいている皆様のおかげです。有り難うございます。今後ともよろしく申し上げます。